

事 記

演 習 林 記 事

昭 和 44 年 度

目 次

はしがき	73
I 人 事	73
II 管 理	73
III 施設・設備	74
IV 経 営	74
V 試験・研究	75
VI 職員研修	76
VII 演習林協議会	76
VIII 全国大学演習林協議会	76
IX 学生実験・実習	77
X 防火対策	77
XI 学部庭園管理	77
XII 予算・決算	77
おわりに	79

は し が き

「演習林報告」第8号を発刊するに当たり、例年どおり、この記事に掲載する。昭和44年度は、後述するよ  
うに、重要な教官人事があったほか、当演習林も次第に充実の度を加えたように思う。なお積年待望の諸事項が  
あるが、各位のご協力を得て、一つ一つ解決していきたいと考える。

以下、昭和44年度の歩みのうち、主なる事項につき記載したい。

I 人 事

1) 昭和44年4月1日付、渡部芳夫・江崎次夫の両氏が助手に採用され、管理事務所勤務を命ぜられた。渡  
部芳夫氏は、愛媛県林政課県有林係長から転出の、経験ゆたかな老巧であり、江崎次夫氏は、林学科卒業の新鋭  
である。

2) 相原嘉男事務官は同日付、農学部会計係へ配置となった。その後任として補導係勤務の篠原智子事務補  
佐員が演習林事務室に採用された。また、武村礼子氏は前年度に引続き雇用したが、5月31日付で退職した。

3) 昭和44年6月1日付、管理事務所長渡部桂助手は本部勤務、研究主任兼経営主任を命ぜられた。後任所  
長として渡部芳夫助手が、同日付で発令された。

4) 昭和44年6月19日の教授会において、渡部桂助手の講師昇件が決定、8月1日発令となった。

5) 昭和45年3月31日、演習林長山畑教授は、任期満了となった。

6) 演習林事務主任松沢匡房事務官は、昭和45年3月31日をもって、勸奨により退官した。

II 管 理

1) 昭和44年4月2日付、松山市長より演習林長あて、町各変更告示の送付があった。管理事務所は松山市

大井野町，事業区は米野町に属することとなったが，事業区名は従来どおり「米野々事業区」と呼ぶこととした。

2) 昭和45年度新規概算要求として，自動車道開設・歩道の新設改良・管理事務所改築および山林購入を提出・4月30日教授会で承認された。

3) 7月3日，学部会議室において文部省実地監査をうけたが，なんらの指摘もなかった。

4) 6月28日から29日にかけての集中豪雨のため，林地崩壊・立木倒伏などの被害があった。7月5日，経営内規第46条に基づき，農学部長あて報告書を提出した。

5) 管理事務所前の県道舗装につき，学部長を経て学長名により愛媛県に陳情書を提出した。松沢事務官が県事務所と何回も折渉した結果，ついに実現する運びとなった。工事は2月中旬に行なわれ，事務所を中心に延長300メートルが舗装された。

6) 松沢事務官の退任を機とし，庶務・会計などに近く主任制度が発足するということもあり，演習林事務主任を「演習林係長」とする案が学部事務長から提示された。林学教官会議の意見など聴取の結果，これを拒否することとした。事務主任は国立学校設置法施行規則第29条に根拠を有する職名だからである。

7) 昭和43年7月27・28日にわたる台風4号の豪雨による岩屋小屋林道の被害については，補助事業として，損害箇所約半分につき復旧工事(工事費324万4千円)が行なわれ，残りは，45年度に復旧することとなった。

### Ⅲ 施 設 ・ 設 備

1) 前年度，管理事務所敷地の擁壁・埋立工事の完成に伴い，井戸の位置を変更したところ水質に若干の異常が認められた。早速，品川教授に水質検査を依頼，6月から7月にかけて数回にわたる検査の結果，飲料および炊飯用として不適当との判定であった。よって，さらに井戸の位置を変更し，揚水ポンプを自動滅菌式に取換えた。なお，事務所のゴミ類は従来敷地裏の荒地で処分していたが，強力なゴミ焼却炉を敷地内に設置し，清潔を図ることとした。

2) 国立学校特別会計，実習施設整備費よりブルドーザー購入予算300万円の配分があった。これにより小松製作所D20S型3.5トンブルドーザーを購入(10月31日)，米野々事業区第1林班の土場に仮設格納庫を設け，常置することとした。林道補修その他に威力を発揮するほか，学生実習にも益するところ大である。

また45年2月，演習林整備費として40万円の追加配分があったが，協議の結果，西ドイツ製ツリーマンキーを購入することとした。枝打の効率化と学生への教材として，その機能が期待される。

3) 管理事務所暖房用ストーブについては，従来の石炭ストーブを廃棄し，大型石油ストーブを設置した。また学生実習用として小型石油ストーブ3個を購入した。

4) 昭和37～8年当時検討したことのある，山元苗畑設置の件，44年12月に林内苗畑として第1林班内の土場の一部に開設した。主として事業用床替苗の育成に供するが，面積は約500平方メートルである。これも，ブルドーザあったればこそ，というべきであろう。

5) 勝山試験地には，ポンプ・消毒器具などの置場として，ストックハウス(床面積5平方メートル)を設置した。

6) 米野々事業区の椋皮田地区自動車道新設工事は，前年度に引続き，施設課所管により，工費374万円で，幅員3.6メートル，延長160メートルが竣工した。これで椋皮田地区の総延長は820メートルとなった。

### Ⅳ 経 営

1) 1林班い小班において，豪雨による被害木スギ35本，14m<sup>3</sup>を伐倒造材し，素材154本，12m<sup>3</sup>を生産，8月27日，松岡木材有限会社へ売払った。

2) 1林班は小班において，モミ・ツガ・スギ・ヒノキなど針葉樹，およびクリその他広葉樹，合わせて5,777本，444m<sup>3</sup>を，林総合林業に請負いにて伐木・造集材させ，素材12247本，419m<sup>3</sup>を生産した。このうち，スギ，ヒノキなど用材1,700本，79m<sup>3</sup>は，12月1日，伊予木材株式会社へ，モミ，ツガほかパルプ材10,547本，340m<sup>3</sup>は，同日，林総合林業へ売却した。

3) 1林班い小班において，スギ・ヒノキ・アカマツなど694本，82m<sup>3</sup>を間伐し，素材1,785本，62m<sup>3</sup>を生

産した。45年3月4日、伊予木材株式会社が落札した。

4) 勝山試験地生産山行苗のうち、不要苗木15,400本を松山市森林組合ほか3名に売却処分した。

5) 1林班ほ小班の伐採跡地3.72haに、スギ9,600本、ヒノキ9,250本、アカマツ1,150本、計20,400本を植栽した。また、前年度新植地に、スギ1,000本、ヒノキ1,000本を補植した。

6) 幼令造林地 48.52ha の下刈を行なった。また、つる切、除伐などの手入れは、25.54ha に対して行なった。

7) 米野々事業区第3次経営計画の編成を行なった。計画期間は、昭和45年4月1日から昭和50年3月31日までの5年間である。

## V 試 験 ・ 研 究

1) 演習林協議会の議を経て、演習林における試験・研究の取扱要領を下記のとおり制定した。昭和40年11月1日施行の「演習林実習及び試験・研究取扱要領」は、廃止となった。

### 演習林試験・研究取扱要領

1. 愛媛大学農学部付属演習林規程第6条に基づき、この要領を定める。

2. 農学部教官または学生が、米野々演習林もしくは勝山試験地において、試験・研究を行なおうとするとき、および試験・研究資材を得ようとするときは、所定の申請書を演習林長に提出し、その承認を得なければならない。

3. 当初提出した申請書の内容に、大きな変更を加えようとするときは、あらかじめ変更申請書を演習林長に提出し、その承認を得なければならない。

4. 試験・研究を中止するとき、または試験・研究が完了したときは、その経過および結果の概要を記載した実施報告書を、演習林長に提出しなければならない。

5. 演習林長は、試験・研究申請書、変更申請書、および実施報告書等に基づいて、「演習林試験研究台帳」を作成し、これを保存しなければならない。

則 付

1. この要領は、昭和44年7月1日から施行する。

2. 昭和40年11月1日施行の要領は廃止する。

年 月 日

付 属 演 習 林 長 殿

学生氏名

教官氏名

講座主任氏名

印

印

### 試 験 ・ 研 究 申 請 書

下記要項により {試験・研究を実施したい} ので申請いたします。  
{試験・研究資材を得たい}

1. 題 目
2. 目的・方法など内容の概略
3. 実施予定地および区域面積
4. 実施期日または期間
5. 演習林から援助を要すべき事項
6. その他、参考事項

注. 学生が申請する場合は指導教官氏名印もお願いします。

2) 六演習林共同研究「スギ品種地域連絡試験」用地として、0.46ha の試験地を1林班ほ小班に設定し、スギ挿木苗2,700本を購入植栽した。

3) 同じく1林班は小班に「九州産スギ精英樹クローン集植地」として面積0.6haを区画し、1,035本を植栽した。このスギ挿木苗は、松沢事務主任が退官記念として寄贈したものである。寄付採納願は45年3月16日、演習林長が受理した。

4) 第6号掲載の試験・研究は、継続して測定、調査が行なわれた。あらたに渡部芳夫助手ほか1名により「スギ苗木の仮植期間が植付後の活着率におよぼす影響について」研究が開始された。

5) 昭和44年の気象観測結果は別表に示す。なお、岩屋小屋地区での観測は昭和44年限りとし、45年からは管理事務所敷地内で行なうこととなった。

## VI 職 員 研 修

1) 昭和44年6月2日～4日、山畑演習林長・渡部桂助手・江崎助手は、農林省林業試験場四国支場の研究発表会に出席、同場内および関西林木育種場四国支場ならびに五台山牧野植物園などを視察した。また高知大学農学部林学科を訪問、教官たちと意見の交換を行なった。

2) 昭和44年8月9日～14日、渡部講師は広島県西条営林署管内国有林において、「治山復旧林分の皆伐更新地における林地保全に関する調査」に参加した。森林計画学講座および森林工学講座による共同調査である。

3) 昭和44年10月2日、技術職員5名は、管理事務所長引率のもとに、愛媛農業祭(林業試験場・農業試験場)を見学した。

4) 昭和44年11月3日～13日、江崎助手はブルドーザー購入に伴う整備運転技術修得のため、枚方市にある小松製作所大阪車両教習所に出張、教習を終えた。また、尾上・三好・村上・山本の各技官も順次大型特殊免許を取得した。

5) 昭和45年1月27日～29日、渡部管理事務所長引率のもとに江崎助手・尾上・三好・山本・村上技官は、御嶺県有林を視察、森林経営ならびに管理について研修した。

6) 昭和45年2月9日～13日、山畑演習林長・渡部講師・村上技官は、大分県日田市の日田林工高等学校で行なわれた「スギ品種連絡試験」苗木交換および研究打合せ会に出席した。またその途次、塩谷教授・青木助教授のご案内を得て、九大粕屋演習林をつぶさに視察した。

7) 昭和45年3月11日～14日、山畑演習林長・渡部講師・山本技官は、九州林木育種場で行なわれた、スギクローン集植地造成のための、苗木受領および研究打合せ会に出席、同育種場を視察した。

## VII 演 習 林 協 議 会

1) 昭和44年6月13日付、石川久雄教授および木下良郎助教授(木材化学・繊維化学講座)に演習林協議会委員を委嘱した。任期は1年である。

2) 昭和44年6月30日、第15回演習林協議会を開催、定数確認、会議録署名者の指名、前回会議録朗読のあと、昭和43年度事業報告に関する件、演習林試験・研究取扱要領(案)に関する件、を付議した。おわりに、渡部経営主任から前回以後の経過報告を行なった。

3) 昭和44年12月5日、第16回演習林協議会を開催、諸手続を終了のあと、昭和44年度事業予定に関する件を付議した。また、前回以後の経過について報告を行なった。

4) 昭和45年3月18日、第17回演習林協議会を開催、米野々事業区第3次経営計画編成方針(案)に関する件を付議した。

この協議会では、原案審議に先だって、事業区の林小班別地況および林況に関するカラーライドを映写、林長が説明する、という初めての試みがなされた。なお、編成方針案は経営内規第26条により農学部長に提出、3月27日、その承認を受けた。

## VIII 全国大学演習林協議会

例年のように、春秋2回の総会が開催された。出席者その他、要点は次のとおりである。

1) 春季総会 昭和44年4月2日、東京農工大学農学部第2会議室

出席者 演習林長 山畑一善、事務主任 松沢匡房

2) 秋季総会 昭和44年10月1～2日, 山形県出羽山神社羽黒山斎館

出席者 演習林長 山畑一善, 事務主任 松沢匡房

総会のあと, 文部省主催「演習林教育研究集会」および別室にて演習林事務担当者協議会が行なわれた。秋季総会は演習林若手研究者の出席が目立ち, 開会当初から全演協の性格や在り方をめぐって相当の荒れ模様であった。教育研究集会は激しい論議がなされた。全演協史上, 特記すべきことであろう。

## IX 学生実験・実習

昭和44年度に実施された, 演習林における実験・実習は下記のとおりである。

実習種別	期 間	担 当 教 官	学 生
森林土木学	44年10月16日～18日	中島武教授, 伏見助教授	4 回生 23名
森林計画学	〃 10月18日～21日	山畑教授, 藤本助教授, 山本助手	〃 23名
林木測定学	45年3月5日～10日	同 上	3 回生 27名
造 林 学	〃 3月10日～13日	中島幸雄教授, 金子助教授, 辻田助手	〃 24名

ほかに, 造林学実習のうち, 育苗実験実習は, 勝山試験地において年間を通じて実施された。

## X 防火対策

1) 例年のとおり「演習林消防内規」第4条に基づき「防火巡検計画」を樹て, 計画どおり管理事務所・作業所・林内自主防火巡検を行なった。巡検結果は「防火巡検日誌」に記録され, 毎月1回, 演習林長が確認し, 助言指導を行なった。

2) 昭和45年3月20日, 松山市消防団湯山分団長 永井忠教氏ほか4名に事業区の防火診断を依頼, 実施した。今回は, 林内歩道の要所に「道標」設定の必要性が指摘された。なお, 消防内規第7条に設定されている消防訓練は, 経営計画編成業務のため実施の機会を失した。

## XI 学部庭園管理

1) 昭和44年5月7日の主任会においてウズラ飼育室南側に約36平方メートルの庭園用苗木仮植地の設置が決定され, ただちに整地作業を行ない, 使用することとなった。

2) 昭和43年3月, 永井技官は金子助教授とともに, 京都府立植物園その他を視察研修したが, その復命書は学部構内美化に参考とすべき点が多いと思われたので, 昭和44年8月, 学部庭園委員会委員の回覧に供した。

3) 学部総合建設第3期工事の完了と, 庭園造成のための地割りの進行に伴って, 構内除草区分の再検討が必要となった。7月25日, 演習林, 農場, 農高, 会計係および補導係, それぞれの除草責任区域が決定した。

4) 構内環境整備の主な業務は, 次のとおりであった。

① 芝生の造成 3,000m<sup>2</sup>

② 樹木の植栽

トウジュロ 37本, アメリカフウ 23本, タイサンボク 17本, ユリノキ 6本, コブシ 2本, モクレン 2本, カツラ 1本, その他刈込み, 花木の植込み等。

③ 樹木の処分

不要になった樹木 ソメイヨシノほか9本を伐採し処分した。

5) 昭和44年度は庭園造成事業が大幅に進展した。ここに, 本学部庭園のデザインは, 京都大学名誉教授関口鉄太郎氏であることを, 感謝をこめて明記しておきたい。

## XII 予算・決算

演習林経営内規第45条第2項に基づき, 演習林協議会の承認を得て, 昭和45年7月16日付, 農学部長あて「演習林事業報告書」を提出したので, それによって概要を記す。

昭和44年度予算および決算

演習林歳入予算

収 入 目 標 額	
基 準 収 入	3,565,000
木 材 引 取 税	70,000
計	3,635,000円

歳 入 決 算

素 材	4,377,100
木 材 引 取 税	85,825
苗 木	73,280
計	4,536,205円

演習林歳出予算 (校費)

事 業 費	5,616,000
43 年 度 調 整 配 分	255,000
実 習 施 設 設 備 費	3,000,000
庁 費 (学部内配分)	7,700
教官当積校費 ( " )	269,763
自 動 車 維 持 費 (学内配分)	58,000
設 備 更 新 費	193,000
元 賃 金 職 員 振 替 額	△ 58,500
農学部定員削減等経費負担額	△ 190,700
予 算 節 約 額	△ 82,898
森 林 計 画 学 講 座 へ 付 替	△ 100,000
農 場 経 費 へ 付 替	△ 792
庭 園 管 理 費 へ 返 済	△ 7,515
庭 園 管 理 費 へ 貸	△ 2,012
学 部 内 調 整 額	△ 525,936
計	8,431,110円

(旅 費)

事 業 旅 費	273,000
会 議 旅 費	71,440
教 官 研 究 旅 費	29,118
連 絡 旅 費	11,115
森 林 計 画 講 座 へ 付 替	30,000
前 年 度 調 整 額	500
学 部 内 調 整 額	△ 1,353
計	413,820円

歳 出 決 算

種 目	校 費			旅 費	計
	労 賃	そ の 他	計		
素 材 生 産	183,400	1,659,054	1,842,454	1,310	1,843,764
更 新	380,520	12,802	393,322	—	393,322
保 育	1,104,440	84,825	1,189,265	1,350	1,190,615
苗 畑	206,100	200,483	406,583	—	406,583
土 木	170,800	512,421	683,221	760	683,981
調 査	25,334	43,409	68,743	10,630	79,373
保 護	43,400	11,940	55,340	10,200	65,540
維持管理(本 部)	—	38,123	38,123	175,630	213,753
〃 (管理事務所)	—	262,566	262,566	—	262,566
学 生 実 習	39,240	205,156	244,396	59,960	304,356
試 験 研 究	—	349,226	349,226	153,980	503,206
実 習 施 設 設 備	—	2,897,871	2,897,871	—	2,897,871
計	2,153,234	6,277,876	8,431,110	413,820	8,844,930円

庭園管理歳出予算

庭園管理費(学部内配分)	184,900
〃 (前年度調整額)	15,562
〃 (予算節約額)	△ 4,173
演習林経費より借入	2,012
計	198,301円

歳 出 決 算

種 目	校 費			旅 費	計
	労 賃	そ の 他	計		
庭 園 管 理 費	78,650	119,651	198,301	—	198,301円

自動車道新設費(施設課所管)

予 算	3,740,000円
決 算	3,740,000円

お わ り に

4年ぶり2度目の演習林長であったが、任期を無事終了することができた。林道延長・県道舗装・ブルドーザー購入・林内苗畑の設置その他、前林長の実績をふまえて、着々と整備充実を図ることができたのは、喜ばしいかぎりである。しかし、今後解決に努力しなければならない問題が、なお少なくないことに注意を要する。すなわち松皮田林道の延長と長井田地区への林道開設、いわゆる大西山林の購入、中型トラックの購入、そしてさらに急務を要する管理事務所の移改築、などがそれである。機会あるごとに関係方面と接触し、その理解と協力を得るよう、努力する必要がある。

昭和44年気象観測結果

種目別	月別												計	平均	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
気温	平均	1.5 (0.5)	1.2 (0.1)	3.1 (3.8)	8.4 (10.3)	12.9 (13.3)	14.8 (16.5)	19.2 (20.9)	20.2 (21.5)	17.2 (17.6)	10.3 (11.5)	5.1 (7.0)	0.1 (1.7)	114.0 (124.7)	9.5 (10.4)
	最高	4.4 (3.4)	4.1 (3.3)	7.3 (8.3)	13.9 (14.9)	17.9 (18.5)	19.4 (21.1)	22.6 (25.0)	24.3 (26.4)	21.3 (22.7)	14.1 (15.4)	8.6 (10.8)	2.2 (4.5)	160.1 (174.3)	13.3 (14.5)
	最低	15.0 (19.0)	15.5 (15.5)	17.0 (19.5)	23.5 (25.5)	23.5 (24.5)	23.0 (27.5)	26.5 (30.0)	27.5 (32.0)	25.0 (30.0)	19.0 (23.5)	16.5 (20.0)	11.0 (14.5)	74.0 (81.1)	6.2 (6.8)
	極	-1.4 (-2.5)	-2.1 (-2.8)	-0.7 (-0.5)	4.9 (6.4)	8.0 (8.6)	10.8 (12.3)	16.0 (17.3)	17.0 (17.8)	14.7 (14.2)	7.1 (8.1)	2.2 (3.4)	-2.5 (-1.2)	-3.5 (-8.0)	
湿度	80 (72)	78 (70)	73 (67)	67 (67)	69 (66)	72 (71)	80 (74)	74 (71)	77 (73)	76 (71)	75 (72)	73 (71)	894 (845)	75 (70)	
降水量	月平均	117.6 (84.5)	118.2 (51.1)	111.5 (112.3)	129.0 (183.9)	110.8 (120.6)	437.1 (280.1)	335.7 (311.9)	109.2 (137.6)	54.5 (218.4)	56.3 (103.1)	88.8 (124.5)	91.2 (70.4)	1,759.9 (1,798.4)	146.7 (149.9)
	日最大	3.8 (2.7)	4.2 (1.8)	3.6 (3.6)	4.3 (6.1)	3.6 (3.9)	14.6 (9.3)	10.8 (10.1)	3.5 (4.4)	1.8 (7.3)	1.8 (3.3)	3.0 (4.2)	2.9 (2.3)	57.9 (59.0)	4.8 (4.9)
	6時間最大	—	—	—	46.5 (63.0)	21.7 (60.2)	152.0 (152.0)	84.5 (310.0)	58.2 (102.2)	23.8 (145.6)	23.0 (89.1)	21.0 (82.6)	—	—	—
	日最大	—	—	—	22.0 (58.4)	20.2 (31.2)	58.0 (59.4)	57.5 (188.5)	46.5 (58.6)	23.8 (87.4)	11.0 (47.4)	10.4 (30.0)	—	—	—
蒸発量	月	—	—	—	103.4 (70.5)	111.5 (94.9)	103.3 (86.2)	93.1 (70.1)	134.0 (101.8)	74.9 (71.8)	51.9 (57.5)	32.0 (36.9)	—	—	—
	日	—	—	—	10.5 (10.5)	8.1 (8.1)	8.2 (8.2)	8.0 (8.0)	8.0 (8.0)	5.2 (5.2)	4.2 (5.0)	2.4 (4.5)	—	—	—

( )内はそれぞれ平均値および極値を示す。気温・湿度・降水量は、昭和39・40・42・43・44年の値を示し、蒸発量は昭和40・42・43・44年の値を示す。